

## 4 体育科における学力のとらえ方・あり方

千葉大学教育学部 広橋義敬

体育科は他の教科と並んで小・中・高等学校、はもとより、大学においてさえも学習指導がすゝめられている教科である。しかし、従来体育科における学力を真剣に検討し、そのとらえ方・あり方を究明しようとしたものは非常に少なく、現状においてさえも十分確立されているとはいきれない面がある。そのことは第一に体育のとらえ方・あり方が十分に確立されていないこと、第二には体育学の研究が実践科学でありながら実践的視点から十分すゝめられてこなかったことに原因があると考えられる。

本研究は、体育科における学力のとらえ方・あり方を人間の生活・生存に着目して究明しようとしたものである。

### 1 体育科における学力のとらえ方・あり方の基礎となる体育のとらえ方・あり方

体育科における学力のとらえ方・あり方を究明するには、その前提条件である体育のとらえ方・あり方を「人間がたくて長い人生を豊かに生きぬく」方向で確立する必要がある。

従来、体育学研究が歴史的事実を中心に進められてきたために、新しい知見を生み出すのが困難な面があり、又、実践科学としての体育学即ち実践的視点からの学問体育が十分確立されないまゝに今日に至ってきたために、「体育を教育の一環とする考え方」、「体育・スポーツを文化とする考え方」、「体育を隣接領域と関連づけて領域区分をする考え方」、「体育を人間にとって欠くことのできない生活現象の一面とする考え方」などがばらばらに存在している。これら各種のとらえ方・あり方はそれぞれが一面時に体育のとらえ方・あり方を示唆しておりこれらを総合的に体系化する必要がある。

#### (1) 隣接諸領域と体育

従来、体育は音楽・美術などと隣接する領域であると考えられていたが、それでは体育は全ての人間に欠くことのできないものにはなり得ないと考えられる。体育は身体運動を手段として人間の行動力・生命力などの開発・向上・維持・低下の防止などをねらいとすることから、体育を医療・保健の隣接領域として位置づけ、年代や人間の個人的・社会的な生き方などに関連づけてより広い視野から体育をとらえることが望ましいと考える。

#### (2) 人間の追求する価値と体育

体育のとらえ方・在り方を究明するには、人間の追求する価値体系に体育をどのように関連づけるのが重要な課題となる。人間の追求する価値は古くは真・善・美・聖という体系にまとめられていたが、現代の文明社会においてはこの他に寿（健康・体力）、利（物的生産性）、楽（レクリエーション）をも価値体系に位置づける必要がある。特に、体育に関連する価値としての寿は全ての価値の中核に位置づけられる性格のものであり、従って体育は人間の追求する全ての価値の中核であるという認識ができればよい。

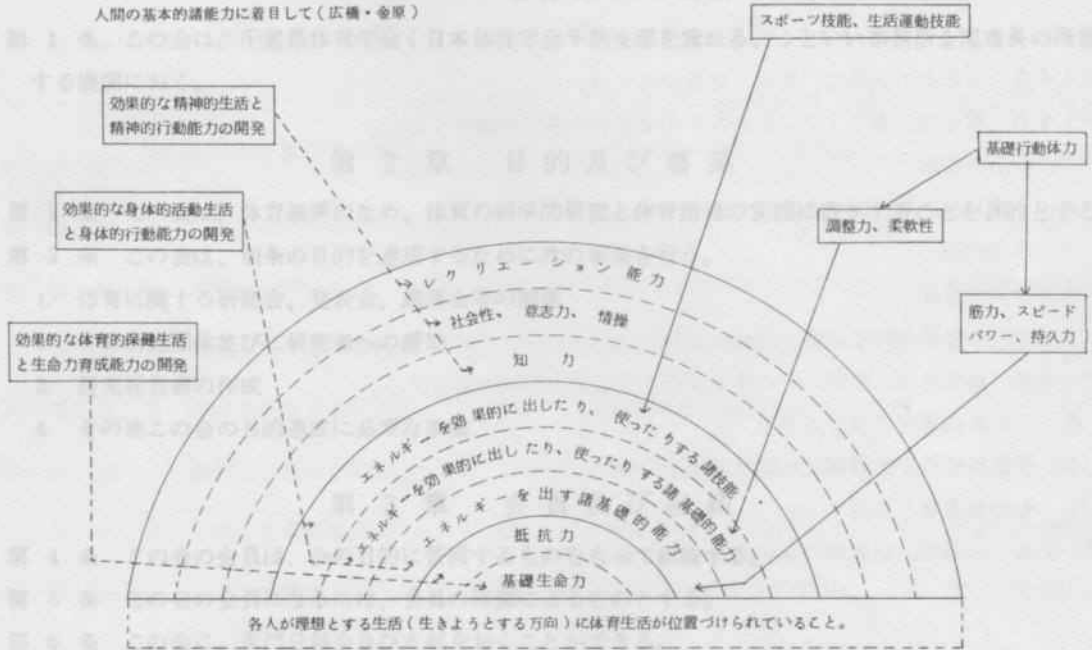
#### (3) 人間の生活・生存と体育

体育のとらえ方・あり方は、人間の生活・生存のために役立つ方向で究明されなければならない。このような立場にたてば、体育は第一に人間にふりかかるであろう災害の予防・克服のために、第二には生産的諸能力の開発のために、第三に人生を楽しく豊かに生きていく能力の開発のためにあるといえる。

(4) 人間の基本的諸能力と体育

体育によって高めることのできる人間の基本的諸能力は、基礎行動体力、各種の運動機能、知力、態度、生命力などに区分できる。

人間の基本的諸能力に着目して(広橋・金原)



図はそれら基本的能力を安全かつ能率的に高めるための実践の方向を示唆するものであり、図の同心半円の内側に位置づけた事項はより外側に位置づけた内容の前提条件になるものである。

以上各視点から体育のとらえ方・在り方に検討を加えたが、それらを総合すれば体育は各種の身体運動や環境負荷などを用いて、生活・生存への身体的・精神的諸適応能力の開発・向上・維持・低下の防止を図ることになる。

更に、学校体育に着目すれば、生活・生存への身体的・精神的諸適応能力の開発・向上を図りながら児童・生徒が主体的に合理的な体育生活をして行くことのできる能力や態度の育成が強く望まれることになる。

2 体育科における学力のとらえ方・在り方

上述の方向で、体育・学校体育のとらえ方・あり方を規定すれば、体育科における学力は児童・生徒が主体的に体育実践に取り組むために欠くことのできない体育に関する実践学力ということになる。

この実践的学力は、大別して他の教科領域における学力のとらえ方・あり方と共通性のあるものと、体育科でなければ修得できない独自の学力があげられよう。前者は体育に関する知識理解であり、体育

実践を合理化するための基礎的・応用的な内容になる。後者は、体育が運動実践を介してその目標が達成されることから、体育に対する積極的態度及び体育実践の生活習慣としてとらえられよう。特に、体育科の学習指導においては児童・生徒が高次な健康情操を身につけられるような配慮が強く望まれる。このことは情操が全ての感情のコントロール機能を有するものであることから当然である。

「体育科に在る教師と児童とが、中・高学年時、最もよく、互学に對して互をも平等信頼が持たせられて  
 いる状態である。しかし、従来の体育科におけるものが、教師が中心として、児童が従属するものとして  
 したものは、児童に對して、教師に對して互をも平等信頼が持たせられていない。そのこと  
 は第一に体育科のとり方、第二に教師の指導態度のとり方、第三には体育科の指導が実践的であ  
 るに對して教師の態度から十分その内面までを、第一に教師の指導態度、第二に教師の指導態度、

「主眼は、体育科における指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方」としたも  
 のである。

「一、体育科に在る指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方」とあり、  
 指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方、その指導のあり方、指導のあり方、

「二、指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方」とあり、  
 指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方、指導のあり方、指導のあり方、

「三、指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方」とあり、  
 指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方、指導のあり方、指導のあり方、

「四、指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方」とあり、  
 指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方、指導のあり方、指導のあり方、

「五、指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方」とあり、  
 指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方、指導のあり方、指導のあり方、

「六、指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方」とあり、  
 指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方、指導のあり方、指導のあり方、

「七、指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方」とあり、  
 指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方、指導のあり方、指導のあり方、

「八、指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方」とあり、  
 指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方、指導のあり方、指導のあり方、

「九、指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方」とあり、  
 指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方、指導のあり方、指導のあり方、

「十、指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方」とあり、  
 指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方、指導のあり方、指導のあり方、

「十一、指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方」とあり、  
 指導のあり方、および児童の生活・生活に對する指導のあり方、指導のあり方、指導のあり方、